

**Q 1 7 道徳の教科化の背景には大きな要因の1つとしていじめ問題が挙げられています  
が、どのような道徳の授業をしたら、いじめ防止へとつながるのでしょうか。**



「あなたならどうするか」を真正面から考えるように授業の質的転換を図り、「考え、議論する道徳」を行うことで実感が伴う指導への期待がされています。そのために道徳的価値に関する問題解決的な学習や体験的な学習など多様な指導方法を工夫する必要があります。

**1. 指導の具体例**

児童が積極的に考え、議論できるよう、教師は児童の発達段階や実態に応じた様々な指導方法を考えることが大切です。

傍観者、いじめる側、いじめられる側のそれぞれの視点に立って考える授業

**多面的・多角的な立場で考える学習**

<例> 6年「泣き虫」(公正、公平、社会正義)

あらすじ：転校生の勇氣くんは、藤井くんをいじめるトオルくんたちに立ちはだかり、いじめに同調するクラスみんなに向かって泣きながら抗議をする。

「あなたが勇氣くんならどうするか」  
「あなたが藤井くんならどうするか」  
「いじめを見ている人ならどうするか」を問い、どのように行動したらよいかそれぞれ立場の違いから考える。

問題場面において「何が問題だったのか」「自分ならどうするか」を問う授業

**問題解決的な学習**

<例> 6年「この胸の痛みを」(相互理解、寛容)

あらすじ：私と由希と朝実の仲良し3人組が登場。私は朝実に避けられていることを由希に相談すると朝実は私と遊びたくないと伝えられる。思い切って朝実に確認したところ、嘘だと分かり、由希を無視するが釈然としない。

「何が問題だったか」「どうすれば問題回避できたか」を考え、お互いが幸福になれる関係がどんなものかを考える。

**いじめ問題**

役割演技を通して、仲間はずれにする側の気持ち、される気持ちを考える授業

**体験的な学習**

<例> 2年「およげないりすさん」(公正、公平、社会正義)

あらすじ：かめ、あひる、白鳥は、池の中の島へ泳いで遊びに行こうとする。泳げないりすに「いっしょに連れていって」と頼まれるが断っていってしまう。

「仲間外れしようとする役」「一緒に連れて行こうとする役」など違う立場を演じることで「平等な優しさで接することができた時の気持ち」など、実感をもって理解する。

ある休み時間の風景を描いた1枚絵を見て、どこに問題があるのか(いじめにつながるものは何か)を考えさせる授業

**問題解決的な学習**

<例> 2年「クラスの大へんしん」(よりよい学校生活、集団生活の充実)



このような授業を通して、子どもたちにいじめへの「未然に防ぐ力」「自分たちで解決する力」をつける。

## 2. 指導の留意点

### (1) いじめ防止への取り組みの要でもある道徳科の授業

いじめ防止につながるのある内容項目

- ・「善悪の判断」・「正直、誠実」・「個性の伸長」
- ・「希望と勇気」・「友情、信頼」・「国際理解」
- ・「相互理解、寛容」・「公正、公平、社会正義」
- ・「よりよい学校生活、集団生活の充実」
- ・「親切、思いやり」・「生命の尊さ」 など

道徳教育の目標

「自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自律した人間として他者とともにによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。」⇒いじめの防止そのもの

道徳科の授業で学習する大半の内容項目がいじめの防止につながっています。

いじめの防止への取り組みは学校教育全体で行う道徳教育の充実が必要ですが、週 1 時間の授業がその取り組みの要とならなければなりません。いじめについて直接、考え、議論する場として授業の充実が重要です。

### (2) 発達段階を考慮した指導

いじめ防止に関する指導でも6年間を見通した発展性を十分に配慮して指導することが大切です。

「分かっている  
ができない場面」  
をもとに考え、議  
論する。  
人間的な弱さ

「複数の道徳的  
価値が対立する  
場面」をもとに考  
え、議論する。  
葛藤や衝突

低学年「してはならないことがある」

いじめに関係した学習でも、他の内容項目と同じように発展性、発達段階に考慮した指導がもとめられています。

例えば、まず、低学年でいじめを「してはならないこと」と理解する。一方で、そうした理解を前提に、高学年になると「分かっているができない場面」「複数の道徳的価値の対立する場面」において、より自分のこととして考える力が求められるようになります。

いじめは、重大な人権侵害です。川崎市の「子どもの権利条例」にも触れる問題です。授業では、「いじめがなぜいけないのか」を自分の事として考え、議論することで「けんか」や「意見の対立」と違うことを子ども達に認識させ、「いじめられる側にも問題がある」という考え方を乗り越えられるようにすることが大切です。

